

丸亀げんきっ子 夢プラン



令和4年3月
丸亀市教育委員会



I プラン策定にあたって	1
1 プラン策定の趣旨	1
2 基本的な考え方	2
(1)目指す子どもの姿	2
(2)育みたい「生きる力の基礎」の視点	3
(3)丸亀市の重点方針(大切にしたいポイント)	4
II 重点方針(大切にしたいポイント)と具体的取組	5
1 教育・保育内容の充実	5
・「遊び」を通した豊かな教育・保育活動	5
・特別な配慮を必要とする子どもへの支援	9
2 小学校教育との連携及び接続	10
3 子育て支援の充実	13
・在園(所)児の保護者に対する支援	13
・地域における子育て支援(在宅子育て支援)	15
4 地域社会との連携 =ふるさと教育の推進=	16
5 保育の質の向上	17
III 資 料	19
1 年齢別共通カリキュラム	20
2 日々の振り返りや保育カンファレンスの工夫 ~各園・所の取組から~	38
3 関係機関との連携	42
・身近な相談場所一覧	43
・子育て世代のあなたへ	44

I プラン策定にあたって

1 プラン策定の趣旨

子どもは、未来の社会を担う存在であり、子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは社会全体で取り組むべき重要な課題です。子どもの健やかな成長には、身近な大人が発達に応じて適切に関わることや、どの子にも自己肯定感を育んでいくことが大切であり、こうした意味でも人として社会で生きていくための基礎となる力を獲得していく乳幼児期は、特に重要な時期と位置づけています。また、平成29年3月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下「幼稚園教育要領等」という。）が同時改訂され、教育・保育内容の整合性が図られました。このことは、幼稚園・保育所（園）・認定こども園等（以下「就学前教育施設」という。）において健やかな成長のための適切な環境が確保され、等しく質の高い教育・保育を受けられるように、さらに求められているといえます。

丸亀市においては、平成26年3月に乳幼児期の子どもの成長を支えるひとつの施策として、幼稚園と保育所の職員で「丸亀げんきっ子夢プラン」を作成し、本市における就学前教育・保育の基本的な方向性を示しました。今回の改訂版は、現行のプランを継承しつつ、認定こども園の開園や丸亀市の現状と課題を受け、より一層充実した教育・保育が展開していくように改善しています。また、本市におけるすべての子どもの育ちを支える人々にも、本プランの趣旨や視点を参考にしていただき、家庭や地域社会等子どもを取り巻くまち全体で子どもの健やかな育ちを支えることにつながっていくよう期待しています。



2 基本的な考え方

(1) 目指す子どもの姿

丸亀市学校教育方針として、校種間や学校・家庭・地域との連携のもと、楽しい生活を通して生きる力を育み、ひとみ輝き笑顔あふれる子どもの育成を目指しています。

本プランの基本的な考え方として、未来を担う丸亀に住む子どもたちが、キラキラとひとみを輝かせながら、生き生きと活動し、笑顔がいっぱいあふれる子どもに育っていくことを願い、目指す子どもの姿を

『ひとみ輝き笑顔あふれる子ども』

とし、それに向かって子どもを取り巻く全ての大人が、ともに取り組んでいきたいと考えています。

そして、就学前教育施設の教育・保育を中心に、家庭や地域社会の三者がそれぞれの力を發揮し、

『自分が好き』

『友達が好き』

『丸亀が好き』

という丸亀の子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えています。



(2) 育みたい「生きる力の基礎」の視点

乳幼児期は、興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、知的・情緒的な発達が促され、また社会性や道徳性の面でも日々著しく成長する重要な時期です。この時期に経験し、身につけていく力は、将来、人として充実した生活をしていく礎となります。今回の幼稚園教育要領等の改訂で、生きる力の基礎を育むために、幼児期において育みたい3つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を、遊びを通しての総合的な指導により一体的に育むことが共有化されました。この資質・能力は、丸亀市の学校教育方針と相通じるもので、急速にICT化など社会情勢が変容している今こそ、愛着や触れ合いなど人とのコミュニケーションの在り方をさらに考えていく必要があります。そこで、「豊かな心」「健やかな体」「人とかかわる力」「学びの基礎」の4つの視点で子どもたちの生活を展開し、その中で、「生きる力の基礎」を育むことを目指します。

豊かな心

★いろいろな人や「もの」との出会いや関わりを通して、豊かな感性や表現力を育てます。

健やかな体

★しっかりと身体を動かしたり、生活のリズムを整えたりしながらしなやかな体を育てます。

人とかかわる力

★いろいろな人の関わりを通してコミュニケーション力を育てます。

学びの基礎

★子どもの興味や関心に基づいた豊かな体験を通して、好奇心や思考力を育みながら、将来につながる学びの基礎を培います。

(3) 丸亀市の重点方針（大切にしたいポイント）

丸亀市の目指す子どもの姿『ひとみ輝き笑顔あふれる子ども』を具現化するため、本市における現状と課題を踏まえ、大切にしたいポイントを定めて取り組みます。

① 教育・保育内容の充実

就学前の教育・保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ、生きる力の基礎を培う重要なものです。身近な環境にある人々や「もの」「こと」に出会い、それらに主体的に関わることを通して、十分に自己を發揮し、健やかに発達していきます。環境を通した教育・保育の基本のもと、幼児期に育みたい資質・能力を一体的に育み、創意工夫しながら内容の充実を図ります。

② 小学校教育との連携及び接続

子どもは小学校に就学するまでに、遊びを中心とした生活を通じて様々な体験を重ね、創造的な思考や主体性などを培っていきます。培われた資質・能力が小学校教育に円滑に引き継がれていくように、子どもたちの発達を長期的な視点で捉えることが重要です。本市では、長年、就学前教育施設と小学校の連携が行われています。互いの教育や保育に対する理解を深めるとともに、円滑な連携及び接続が図られるよう努めます。

③ 子育て支援の充実

社会状況の様々な変化に伴い、家庭や地域における子どもの生活環境や生活経験も多様化しています。就学前教育施設は、保護者と連携して子どもの育ちを支える視点をもって、子どもの育つ姿とその意味を保護者に丁寧に伝え、子どもの育ちを保護者とともに喜び合うことが重要です。情報の提供、保護者同士がつながる場の工夫、子育ての相談など、地域の実態に応じて子育ての支援活動を創意工夫しながら進めていきます。

④ 地域社会との連携

地域において、子育て家庭は周囲との関係が希薄になりがちな状況になることも少なくありません。そこで、地域の人々との連携や地域の様々な資源を積極的に活用しつつ、多様な体験ができるようにすることで、子どもの健全育成や子育て家庭の養育力の向上、親子をはじめとする様々な人間関係づくりに寄与し、地域社会の活性化へつながっていくことが期待されます。また、ふるさとのよさを知り地域の関係機関等と連携・協働しながら取り組んでいきます。

⑤ 保育の質の向上

子ども一人ひとりが身近な環境に主体的に関わり学びを深めていくためには、教諭や保育士、保育教諭（以下「保育者」という。）の資質や専門性の向上を図ることが求められます。保育者一人ひとりが学びを追及して専門性を高める姿勢をもつとともに、組織的に協働して「カリキュラム・マネジメント」に取り組むなど、就学前教育施設は、それぞれの実情に応じた研修体制の構築と実施に努め、保育の質の向上につなげます。

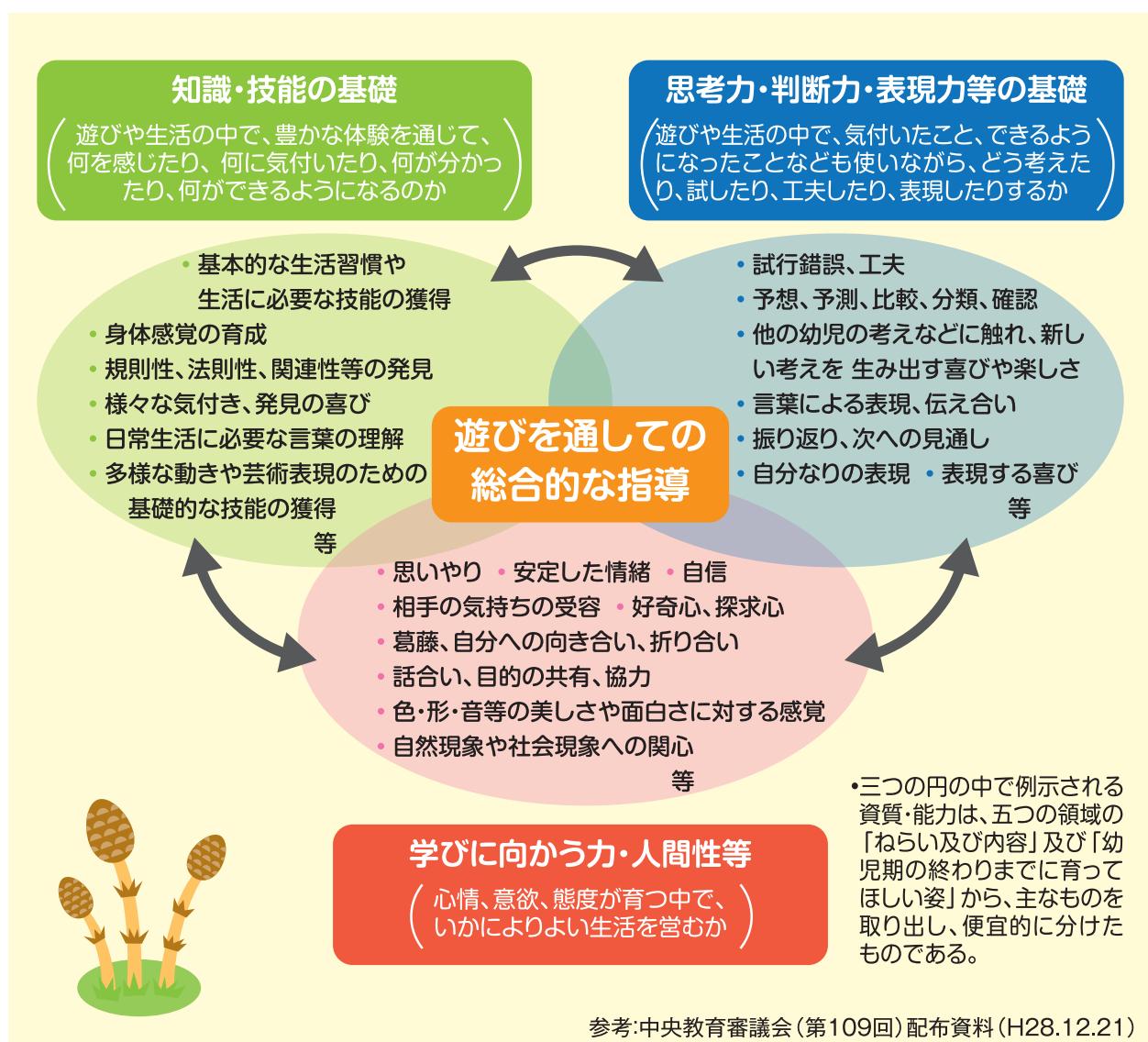
II 重点方針(大切にしたいポイント)と具体的な取組

1 教育・保育内容の充実

【「遊び」を通した豊かな教育・保育活動】

子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、様々な人々、草木や小動物などの自然、遊具や用具、いろいろな遊びや出来事などと出会い、それらとの関わりを深めていきます。その遊びの中で、子どもは興味や関心を広げ、多様な感動体験を通して、気づきや発想、豊かな心情、感性を育んでいきます。子どもの遊びは生活そのものであり、成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。いろいろな遊びを通してたくさん学び、身につけていくのです。

そのため保育者は、一人ひとりの子どもに温かく接し、幼児期において育みたい資質・能力を、5領域のねらい及び内容に基づき、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むように努めることが重要です。子どもが「遊び」から何を学ぶかを見取り、子どもが関わりたくなるような環境を整え、子どもの「学び」を支えます。そして、生きる力の基礎を培うために、基本的な生活習慣の定着、遊び込める多様な体験、豊かな感性を育む活動などを大切にしていきながら、子どもの遊びの充実を図ります。



基本的な生活習慣の定着

- ◆“早寝 早起き 朝ごはん”で元気なからだ
- ◆できることは自分の力で、困った時は一緒にしよう！
- ◆新しい生活様式を取り入れながら

あいさつ



衣服の着脱



食事



生活の場を整える



新しい生活様式を取り入れて



遊びに入る多様な体験の充実

- ◆ なんだろう？ 知りたいな… やってみよう！ 好奇心・探求心から始まる学びの芽
- ◆ 感じる 伝える 認め合う こんな時どんな気持ち？

気づいたり、試したり



豊かな感性を育む活動の充実

◆見て聞いて、触れて感じて、楽しんで！



表現する喜びを味わって



存分に
自己表現を
楽しんで

絵本や物語などに親しんで



豊かな
言葉や表現を
身につけて

異年齢の友達と触れ合って



優しさや憧れを
抱きながら

園内外の環境に関わって



自然の豊かさに
感動して

動植物との関わりの中で



生命の
不思議さや
尊さに気づいて

身近な文化や伝統に親しんで



非日常の
世界に触れて

【特別な配慮を必要とする子どもへの支援】

子どもは一人ひとり異なった発達の姿があり、その特性を理解し十分配慮しながら保育をしていくことが大切です。中でも、特別な支援を必要とする子どもの望ましい成長・発達のためには、個に応じた様々な「手立て」を検討し、きめ細やかな支援と、その保護者に対する幅広い支援が必要です。特別支援教育に関する研修の充実を図るとともに、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成・活用、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う機関との連携など、子どもが安心して周囲の環境に十分に関わり発達していくように一人ひとりの発達を支えていく相談・支援体制づくりに努めています。

また、国際化の進展の中で、外国につながる子どもが、安心して自己を發揮できるように配慮するなど、専門機関とも連携しそれぞれの実情に応じた丁寧な支援を行う必要があります。

一人ひとりに応じた適切な支援の充実



◆ 支援ツールや音楽等の活用

- ・特別な配慮を必要とする子どもが、日常生活を安心して楽しく過ごすことができるよう手助けするため、視覚的な提示や絵カードなどの支援ツールを活用します。
- ・外国につながる子どもの支援に、わらべうたや手遊び、母国の遊びなどを取り入れます。

◆ サポートファイル「かけはし」…（香川県が作成を推進）

- ・生活や勉強の面で支援を必要とする子どもとその保護者を生涯にわたり支援していくために、教育、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働などの関係機関が情報を共有し、効果的に連携を図りながら、一貫した支援をしていくことを目的とする記録ファイルです。
- ・保護者の理解のもと、子どもの将来を見据えて作成し、小・中学校などに計画的、継続的、包括的な支援をつないでいくことを大切にしています。

◆ 巡回カウンセリング …（丸亀市独自の巡回の取組）

- ・医師、大学関係者、保護者、教育機関などによるネットワークを利用し、巡回相談のシステムを構築し、発達障がいなどにより、支援が必要な子どもの個別ニーズに沿った教育実践を展開しようとするものです。
- ・子どもの支援ニーズを把握し、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職と相談員が話し合い、今後の支援に活かせるよう取り組んでいます。
- ・保護者相談及び職員研修も可能で、相談員との話し合いの中で、職員の指導力向上を目指すことも大切にしています。

※他にも丸亀市では「まる育サポート」として「ハッピーサポート丸亀」やNPOと連携した「あだあじょ」、丸亀市発達障害児支援協働事業の「ぴあ・ほっぺ」「すきっぷ」「はぐみくらぶ」「まーる」などの子育て支援、教育・保育に携わる関係者の勉強会「ハートサポート」など、様々な事業を実施し、一人ひとりに応じた支援の充実に努めています。

（資料参照P42～）

2 小学校教育との連携及び接続

就学前教育施設は、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる教育・保育の場として重要な役割を担っています。小学校教育との円滑な連携及び接続を意識し、幼児期から児童期へ生涯の学びとなる長期的な視点で子どもの発達と学びの連続性を確保していくことが必要です。小学校に進学しても、自らの力を發揮しながら乳幼児期に育まれた資質・能力を伸ばしていけるように、就学前教育施設から小学校に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして、育まれてきた資質・能力や子ども一人ひとりのよさ・可能性を引き継いでいきます。小学校においてはスタートカリキュラムが編成・実施され、小学校低学年の始まりにおいてその育ちが活かされるようにしていく必要があります。令和3年7月に文部科学省において幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会が発足され、接続期における教育の重要性が協議されています。

丸亀市では、以前からその重要性を認識し、昭和29年度から丸亀市幼小連絡研究協議会、昭和42年度から丸亀市幼小保連絡研究協議会を組織し、平成28年度から『幼児教育・小学校教育連絡研究協議会』と名称を変更して、子どもや教職員の交流の機会を設けたり、合同研修などを行ったりしています。5歳児と小学校児童との交流の機会を設け連携を図ることや、アプローチ期である5歳児後半のカリキュラムの充実を図り、小学校のスタートカリキュラムへと接続していく必要があります。さらに、相互理解を深め、意義ある連携・接続の推進を図ります。

異校種間の交流・連携

- ◆就学前教育施設間の連携
- ◆校区内での交流活動
(意見情報交換・研修など)



➤ 地域の子ども同士が触れ合って

➤ 中学校区での
幼・保・こ・小・中の意見・情報交換

小学校との連携・接続

- ◆小学校区内での交流活動
 - 交流活動（相互参観、交流活動、ビデオレター、壁新聞、小学校の先生のお話会・保育体験）
 - 研修会（活動の事前事後研修、子ども理解研修、スタートカリキュラムへつなぐ研修など）
- ◆丸亀市幼児教育・小学校教育連絡研究協議会（実践研究発表、分科会協議、講演など）
- ◆就学連絡会など



➤ 交流活動（小学校での活動）

➤ 教職員の意見・情報交換

◆ アプローチカリキュラム（丸亀市教育研究所幼児教育部会において平成29年度に作成。令和3年度に改訂）

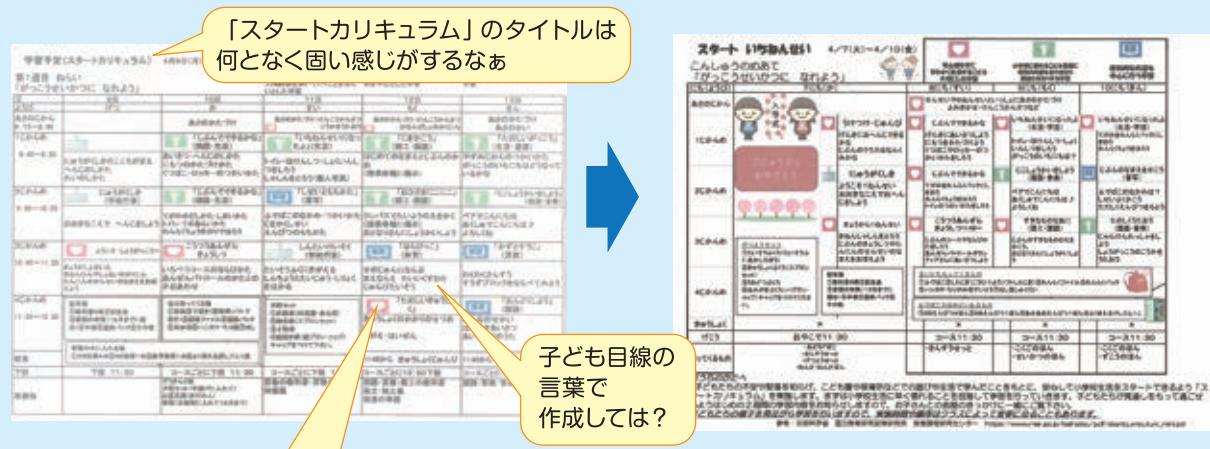
各就学前教育施設の全体的な計画や教育課程等を基本としつつ、幼児教育で育まれてきた資質・能力を小学校へ引き継いでいくための方向性や見通しをもちやすくするためのものです。

(資料参照 P36、37)

◆ スタートカリキュラムの編成・実施

平成29年度に改訂された小学校学習指導要領において、スタートカリキュラムの編成・実施が規定されました。小学校では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛けりに幼児期の実態を理解するとともに、就学前教育施設の教職員と子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが求められています。

(例: G 小学校の取組) 小学校教員と保育者が話し合ってスタートカリキュラムを作成



もっと♥(安心感を育て仲良く生活することを大切にした学習)を増やした方が、子どもが安心するんじゃないかな。

【香川県幼児教育支援員より】

☆子どもたちは小学校に期待して入学してくる。その学びへの期待感をつないでいけるようなスタートカリキュラムであってほしい。新しい環境は誰でも不安なので、まずは安心できるような配慮が必要。安心の部分を多く取り入れていくことで学びの土台ができる

☆活動一つ一つのねらい、方が子どもたちにとって意味のあるものになっているかをもう一度考え方の意欲が湧くような学びとの出会いを工夫する。

★「幼稚期の終わりまでに育つてほしい姿」とは・・・

幼児教育の基本に基づいて、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている、5歳児後半に特に見られる子どもの具体的な姿を整理して示したものです。これらの姿は、子どもの育ちの方向性であり、指導の方向性でもあります。しかし、到達目標ではありません。幼児期に育んでいくのは資質・能力です。遊びの中で現れている姿を育ちつつある姿として、プロセスとして捉えていく必要があります。小学校低学年は、その育ちを活かしながら生活科を中心とした各教科の教育の工夫が必要です。

【幼児期の終わりまでに育つてほしい姿】

※資質・能力の3つの柱によって10の姿ができていることを、厳密には分けられませんが、目安として色分け（「知識及び技能の基礎」=黄色、「思考力・判断力・表現力等の基礎」=水色、「学びに向かう力・人間性等」=ピンク色）して示してみました。そこを読み取って、理解につなげてみましょう。

(1) 健康な心と体

幼稚園（保育所の／幼保連携型認定こども園における）生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくりだすようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園（保育所／幼保連携型認定こども園）内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え方を直したりするなど、新しい考え方を生み出す喜びを味わいながら、自分の考え方をよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え方言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生（保育士等／保育教諭等）や友達と心を通わせる中で、絵本や物語に親しみながら、豊かな言葉や表現を身につけ、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

【出典:10の姿プラス5・実践解説書(ひかりのくに)より抜粋】

3 子育て支援の充実

乳幼児期は、基本的な生活習慣に始まり、社会的なマナーや自制心、コミュニケーション能力など、生きていくために必要な力を身につける時期です。本来それは、家庭や家庭を支える地域の中で、いろいろな生活経験を積み重ねながら培われていくべきものでした。しかし、近年の社会的変化に伴って、地域との関係も希薄になり、家庭での育児に不安や悩みを抱えながら孤立する家庭や虐待等の課題をもつ家庭が増えてきています。そして、子どもにとって適切な時期に様々な人や自然と関わるなどの機会が少なくなり、乳幼児期にふさわしい生活や生活リズムをつくることが難しくなってきている現状があります。

そこで丸亀市では、すべての子どもが家庭及び地域から愛され、心豊かに育まれながら健やかに成長していくことを目的とした「丸亀市子ども条例（令和2年4月1日施行）」のもと、子育て支援の充実に努めています。

在園（所）児の保護者に対する支援

① 子育てのよきパートナーとしての支援

就学前教育施設は、子どもの園・所での様子や子育てに関する情報や考え方などを保護者と共有するため、送迎時の対話、ボードフォリオ（写真にコメントを添えた掲示）、連絡ノート、通信、相談や助言など、様々な機会を活用して保護者との相互理解を図るように努め、個々に合った子育ち・親育ちを支援する役割があります。

保護者との日々のやり取りの積み重ねから築かれた信頼のもと、一人ひとりの子どもの発達を見守る保育者やその他の専門職（調理師・看護師など）の視点で、子どもの気持ちや行動の理解の仕方、心身の成長の姿などを伝えています。子育ての基本は家庭です。家族から愛された経験が、その後の成長過程で、自分や家族、友達を大切にしようとする気持ちにつながっていきます。



② 一時預かり事業（在園児対象）

幼稚園等の1号認定児の教育日の保育時間終了後や長期休業期間中に、保護者の勤務形態による就労や、家庭の事情により家庭で保育が困難な場合に、保育を希望する子どもを預かります。

③ 保護者同士の交流

保護者同士という同じ立場だからこそ、子育ての悩みや不安を分かち合えます。お互いが思いを共感することで、不安や悩みは半減したり、喜びは何倍にもなったりすることがあります。就学前教育施設での様々な保護者参加の行事やPTA・保護者会活動は、保護者同士が知り合うきっかけとなるものです。そして、そこでの交流によって、保護者同士が互いを励まし、助け合うことのできる仲間として育っていくとともに、子育て意識の向上につながることを願い、様々な活動を行っています。

- 行事（親子遠足、夏まつり、運動会、発表会、もちつきなど）
- 保育参観 •保育参加 •保育体験（絵本の読み聞かせ・1日保育士体験）
- 家庭教育講座 •PTA・保護者会連合会スポーツ大会 •地域コミュニティ活動の参加



➤ もちつき

保護者同士の
楽しい
触れ合い中で…



➤ 保育参加

④ 子育て相談の実施

保護者が子育てへの不安や悩みについて保育者と話ができる機会（個人懇談やクラス懇談、家庭訪問など）をもつだけではなく、いつでも相談できるような体制を整えています。また、地域及び医療や福祉、保健などの専門の関係機関との連携を取り、必要に応じて紹介や情報提供などの対応を速やかに行えるようにしています。

子育ての喜びや
悩みを話し合える場



➤ 子育て座談会

相談室

➤ 個別相談

地域における子育て支援（在宅子育て支援）

地域の家庭で子育てをしている親子に、就学前教育施設の機能を生かした地域における子育て支援が求められています。家庭以外での生活や遊びの場で、同年齢に限らずいろいろな子どもと触れ合って遊ぶことは大切です。就学前教育施設は、未就園児家庭が抱える悩みに答えられるような、サポート体制を担う施設としての役割も期待されています。そして、子どもたちにはともに交流する場を、保護者には子育てに対する孤立感や不安感を和らげ、子育ての楽しさを感じられるような支援の場や機会を提供しています。

現在、丸亀市では、一時預かり事業（※一般型）や地域子育て支援拠点事業（※センター型※ひろば型）、※発達障がい児等相談支援事業など、地域の子育て家庭の支援を行っています。

（※）一時預かり事業（一般型）とは・・・

保護者の短時間・断続的労働、疾病、出産、看護などの理由で、家庭での保育が困難な場合に、指定された保育所等で乳幼児を一時的に預かります。

- 非定型保育サービス**…… 保護者の就労形態により家庭における育児が断続的に困難となった乳幼児を一時的に預かります。
- 緊急保育サービス**…… 保護者の疾病、入院、事故、出産及び冠婚葬祭等により家庭において保育を受けることが困難となった乳幼児を一時的に預かります。
- 私の理由保育サービス**…… 保護者の育児に伴う心理的・肉体的負担を解消するために、一時的に乳幼児を預かります。

（※）地域子育て支援拠点事業（センター型）とは・・・

在宅で子育てをしている保護者と就学前の子どもを対象に、保育所（園）の園庭開放や子育ての情報の提供、講習会などをっています。さらに、育児の悩みや不安などの相談活動も行っています。



子育て支援センターでの楽しい活動

（※）地域子育て支援拠点事業（ひろば型）とは・・・

子育てひろばは、おむね3歳未満の子どもとその保護者が気軽につどい、相互交流をする場です。子育てに関する相談や子育てについての情報提供、子どもの年齢に応じた各種イベントなどを実施しています。助産師や保健師、栄養士などの専門家による講座や相談会、保護者がリフレッシュするための催しも行っています。

（※）発達障がい児等相談支援事業とは・・・

発達障がい児等の子どもを育てている保護者や保育者が対象で、子育ての悩みや不安等について専門家による相談、勉強会、情報提供や保護者の交流等を行っています。

4 地域社会との連携 =ふるさと教育の推進=

子どもたちの生活は、家庭を基盤として、地域社会、就学前教育施設と連続的に営まれており、その中で望ましい発達は図られていきます。そのために、地域の人々と連携しながら、ふるさとの自然、伝統、文化などの特性や地域の様々な資源を活用し、子どもたちの心を揺り動かすような多様な体験が得られる機会を積極的に設けることが必要です。丸亀市では、ふるさとを愛する気持ちの育成とともに、地域の人々と交流したり、地域の行事に参加したりするなど、豊かな生活体験を得られるような活動を推進しています。

ふるさとの伝統・文化などに触れる活動

- ◆丸亀城・里山（飯野山、青ノ山、綾歌三山）
- 土器川・ため池・地域の神社や史跡・公園 など
- ◆地域に伝わる伝統行事や四季の行事
(こいのぼり・七夕・月見・獅子舞)

地域を愛する
心を育んで



土器川 YOU 遊フェスタ

高齢者（長寿会）・中学生・未就園児との世代間交流

- ◆長寿会、地域の方との交流
(昔遊び・栽培活動)
- ◆中学生・高校生による保育体験
- ◆愛育班との交流 など

豊かな地域の
自然や人と
触れ合って



長寿会の人と昔遊びを楽しむ

中学生保育体験

各行事への参加

- ◆お城まつり開村式・キッズパレード
- ◆まるがめ婆娑羅まつり
- ◆丸亀駅イベント
- ◆放流活動
- ◆地域コミュニティ活動
- ◆交通安全キャンペーン
- ◆敬老会
- ◆施設慰問 など



お城まつりキッズパレード

施設慰問で触れ合って

5 保育の質の向上

家庭から離れ、初めての集団生活に入る乳幼児期の子どもにとって、「先生」という存在は大きな影響を与える、重要な役割を担っています。一人ひとりの育ちをより大切にしていくため、就学前教育施設の保育者等の資質や指導力・専門性の向上を目指した研修の充実を図ります。

就学前教育施設等の保育者・教職員合同研修会の実施

- ◆外部講師・指導者を招いての研修会（ICT活用によるオンライン研修等も実施）など



➤ 幼児理解研修会



➤ 実技指導研修

- 手遊び
リズム遊び
- 音楽指導
- 表現指導
- 絵画・造形
など

- ◆丸亀市教育研究所幼児教育部会の取組
(1年間の研究テーマを決めての研修)

- 教材研究
- 公開保育による相互研修
- 教育・保育内容の実践研修



➤ 公開保育による研修

- ◆キャリアステージに応じた研修

- 幼児教育マイスター研修
- ミドルリーダー研修
- 新規採用者研修



話し合いを
しながら

➤ 市ミドルリーダー研修

協議しながら
学びを深めて



➤ 幼児教育マイスター研修

園内研修の充実

園内研修は保育者の質の向上に欠かせません。各就学前教育施設において、研修の時間の確保などの難しさはありますが、実態に応じた内容や工夫をして取り組んでいきます。

◆保育者一人ひとりの保育の専門性を高める研修

- ・日々の振り返りや保育カンファレンス
(資料参照 P38~)
- ・研究保育
- ・自己評価・外部評価など



➤ 研究保育による研修

◆園全体の指導力・専門性を高める研修

- ・外部講師(大学教授、香川県幼児教育スーパーバイザー、丸亀市幼児教育アドバイザー、指導主事等)と、園・所の課題と一緒に考えながらよりよい方向性を導き出していくます。
- ・外部評価など



➤ 外部講師を招いての研修



➤ 幼児教育アドバイザー派遣研修

◆課題別に応じた研修

- ・人権教育
- ・特別支援教育
- ・保健・衛生など

嘔吐物処理の
実践研修



➤ 保健研修

III 資 料



1 年齢別共通カリキュラム

0歳児～5歳児

丸亀市就学前教育施設アプローチカリキュラム

2 日々の振り返りや保育カンファレンスの工夫

～各園・所の取組から～

保育記録の工夫

保育カンファレンスの工夫

3 関係機関との連携

身近な相談場所一覧

子育て世代のあなたへ



1 年齢別共通カリキュラム

就学前教育施設では、一人ひとりの子どもが身近な環境に主体的に関わり、遊びを楽しむ中で、達成感、満足感、充実感、挫折感、葛藤などを味わいながら、様々な能力や態度を身につけたり、多くの学びを得たりしています。遊びを通して、生きる力の基礎となる、意欲や自信、好奇心や探求心、協調性、思いやり、自己抑制、やりぬく力などの資質・能力を一体的に育んでいく必要があり、このような育ちを支えるために、保育者は、子どもの姿を丁寧に捉え、読み取り、理解しながら、意図的、計画的にねらいや内容を設定し、環境を構成しています。

丸亀市では平成25年度に、就学前教育施設において統一した視点での教育・保育が基本的に行われることにつながっていくことを目的に『年齢別共通カリキュラム』を作成しました。今回、平成30年4月からの幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の実施、令和2年2月の香川県就学前教育振興指針の策定を受け、幼児期において育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ『年齢別共通カリキュラム』の改訂を行いました。前回作成の共通カリキュラムと同様に、右のページには、本市において育みたい「生きる力の基礎」の視点である『豊かな心』『健やかな体』『人とかかわる力』『学びの基礎』をもとに0歳児から5歳児の発達や学びの連続性を考慮して、ねらい・内容及び環境構成と援助のポイントを示しています。また、0歳児から2歳児には「養護」という観点を明記しています。「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育者が行う援助や関わりです。3歳児以上では、「養護を含めた教育」として表記をしています。乳幼児期や長時間保育においては、特に重視していかなければならないことであり、乳幼児期を過ぎても成人を迎えるまで、その教育の根底にあるものだと考えています。左のページには、カリキュラムをもととして展開される様々な遊びの中から一つの場面を取り上げ、その中で育ちつつある資質・能力を保育者がどう見取っているのかを4つの観点で解説しています。さらに、丸亀市教育研究所幼児教育部会作成の「丸亀市就学前教育施設アプローチカリキュラム」を新たに掲載しました。

この共通カリキュラムが、それぞれの地域性や実態に合わせて、全体的な計画や教育課程、指導計画を編成・実施する際の参考になれば幸いです。丸亀市が目指す『ひとみ輝き笑顔あふれる子ども』の育成に向け、市内の就学前教育施設において子どもの育ちや学びにつながる豊かな遊びの充実を一層図っていきたいと考えます。



0歳児（おおむね6か月未満）

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 抱かれて機嫌よく母乳または育児用ミルクを適量飲む。 首がすわり、手足をよく動かすようになる。その後、寝返りや腹ばいなどの全身の動きが活発になる。 視覚や聴覚などの感覚から自分の周りの世界を認知し始める。 笑う、泣くという表情の変化や体の動きなどで自分の欲求を表現する力が育つ。 機嫌のよい時は、じっと見つめたり、周りを見まわしたり、音のする方や動く物を見たりするようになる。 無意識的な微笑みから、あやされて笑うようになる。 特定の保育者が積極的に働きかけることで、その保育者と愛着関係を結ぶ。 「ア・エ・ウ」などの音や囁語※注1を発する。 		
♡養護	◎ねらい	○内容	★環境構成と援助のポイント
豊かな心	<p>♡愛情を込めて受容的に関わり、安心して過ごせるようとする。</p> <p>◎自分の欲求や意思を表し、身近な人とともに過ごす喜びを感じる。</p> <p>○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、囁語などで自分の欲求を表現する。</p> <p>○保育者と一緒に、身近な玩具で繰り返し遊ぶことを楽しむ。</p>		<p>★抱っこしたり、あやしたりする応答的な触れ合いや言葉かけを繰り返し、人に対する信頼感が育まれるようにする。</p> <p>★囁語や子どもの表情、体の動きから欲求を汲み取り、その都度応えていく。</p> <p>★音の出る玩具や追視玩具※注2、触ったり振ったりしながら遊べる玩具など、一人ひとりの発達に合った環境を整え、安心して過ごせるようする。</p>
健やかな体	<p>♡快適で安全な環境に留意し、一人ひとりの生活リズムに合わせ安心して過ごせるようする。</p> <p>◎保育者に身の回りの世話をしてもらう心地よさを感じながら全身の動きが活発になる。</p> <p>○お腹がすいて、乳（母乳・ミルク）を飲みたい時に飲みたいだけゆつたりと飲む。</p> <p>○安心して眠り、徐々に睡眠のリズムが整ってくる。</p> <p>○おむつが汚れると泣いて知らせ、取り替えてもらう気持ちよさが分かる。</p> <p>○首がすわり、寝返りや腹ばいなど徐々に頭を持ち上げた体勢がとれるようになる。</p> <p>○見る、聞く、触るなどして遊び、目、手、指などの感覚や機能を働かそうとする。</p>		<p>★一人ひとりの発達を把握し、生活リズムの安定を図りながら、生理的欲求が満たされ、健康で快適な生活が送れるようする。</p> <p>★生活リズムや発達に合わせて授乳を行う。また、湯冷ましなどから離乳食を始める。</p> <p>★睡眠と目覚めのリズムを把握し、心地よく眠ることができる環境をつくる。</p> <p>★「気持ち悪かったね。きれいにしようね」と優しく言葉をかけながらこまめにおむつ交換し、心地よさが感じられるようする。</p> <p>★子どもの発達に合わせて心地よい体位で遊べるようにしながら、しだいに寝返りや腹ばいへと促していく。</p> <p>★全身を使って感触を味わう時期なので、口で触れても安全で衛生的な素材の玩具を選ぶ。</p>
人とかかわる力	<p>♡欲求を満たし、自分が受け入れられているという気持ちを育む。</p> <p>◎人に対する信頼感が芽生える。</p> <p>○保育者があやすと体を動かして喜んだり、口元や表情を注視し、真似をして口を動かしたりする。</p>		<p>★特定の保育者が子どもの表す様々な行動や欲求に適切に応え、愛着関係が結べるようにする。</p> <p>★表情豊かにスキンシップを図りながら一人ひとりの子どもの欲求や甘えなどを十分に受け入れる。</p> <p>★自分が愛されていることを感じられるように視線を合わせ、表情、口の動きがはっきりと分かるようにゆっくりと語りかける。</p>
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> 様々な感覚を通しての経験の全てが学びの基礎になる。 		

※注1) 囁語…アーッ、ブーなど、特定の意味をもたない乳児の言葉

※注2) 追視玩具…目で追いかながら楽しめる玩具



0歳児



一对一での関わりの中で、人に
対する愛着心が育っていく時期

豊かな心

「あれ? いなくなつた…」

応答的な関わりの中で、驚き、安心、喜び、期待…様々な感情が芽生え、表情が豊かになっていきます。

健やかな体

「いないいない…ばあ!」

声を出して笑ったり、手足をばたつかせて喜んだり、驚いたり…。様々な感覚や機能が刺激されています。



「ひないいなばあ」



人とかかわる力

「あっ! 見つけた」

遊びの中で、人と関わる心地よさを感じ、
人に対する信頼感が育まれます。



0歳児（おおむね6か月から）

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食から幼児食へ移行する。 ・座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達し、探索活動が活発になる。 ・身近な人の顔が分かり、あやしてもらうと非常に喜ぶようになる。 ・人見知りが激しくなるが、見慣れた人には積極的に関わろうとする。 ・哺乳が「アブアブ」「マンマン」のような繰り返しになり、会話らしい抑揚がついてくる。 ・大人が指差す方に注意を向けたり、ものを指差したりする。 ・両手に物を持って打ちつけたり、叩き合わせたりすることができるようになる。 	<p>★環境構成と援助のポイント</p> <p>★甘えや不安などの様々な欲求や感情をしっかりと受け止め、保育者がそばにいる安心感がもてるようする。</p> <p>★哺乳、指差し、身振りに込められている思いを汲み取り、愛情をもって応えたり、言葉にして返したりしていくことで子どもの言語を理解する力を育み、発達を促す。</p> <p>★安全面に配慮しながら様々な感覚を刺激するような素材や環境を工夫し、探索活動が十分行えるようする。</p> <p>★光や風の心地よさなど、自然の様子が感じられるよう、身近な自然と触れ合いながら、様々な感触が味わえるようにする。</p>
豊かな心	<p>○自分の思いを表し、保育者に受け止めてもらえる安心感をもって過ごせるようする。</p> <p>○保育者との愛着関係の中で自分の気持ちを表す。</p> <p>○言葉が分かり始め「アーウー」などの音声や「マンマ」などの一語文や指差しなどで思いを伝えようとする。</p> <p>○保育者の見守りの中、興味のある身近な玩具で遊ぶことを繰り返し楽しむ。</p> <p>○戸外に出かけ外気に触れ、身近な自然物を見たり触れたりして楽しむ。</p>	
健やかな体	<p>○快適で安全な環境に留意し、一人ひとりの発達や生活リズムに配慮しながら、安心して過ごせるようする。</p> <p>○自分で体を動かすことができる喜びを味わう。</p> <p>○離乳が進み咀嚼と嚥下を繰り返しながら食べ物に親しみ、幼児食へと移行する。</p> <p>○一人ひとりが安定した生活リズムで過ごす。</p> <p>○座る、はう、立つ、つたい歩き、歩くなどの発達に合ったそれぞれの動きを楽しむ。</p> <p>○つまむ、叩く、引っ張るなどの手指を使った遊びを繰り返し楽しむ。</p>	<p>★一人ひとりの発達を把握し生活リズムの安定を図りながら、生理的欲求が満たされ、健康で快適な生活ができるようする。</p> <p>★一人ひとりの子どもに応じて家庭と連携しながら離乳食を進め、自分で食べようとする意欲を育てる。</p> <p>★楽しい雰囲気の中で様々な食品に慣れ、食材そのものの味に親しみ、味覚の幅を広げながら喜んで食べられるようにする。</p> <p>★わらべうたなどで体の動きを楽しんだり心地よいリズムを味わえるようにしたりして、感覚や運動機能の発達を促すようにする。</p> <p>★自ら触ってみたい、関わってみたいという意欲が高まるよう保育者が呼びかけたり素材や感触の異なる玩具を準備したりする。</p>
人とかかわる力	<p>○保育者との愛着関係が深まり、安心して過ごせるようする。</p> <p>○保育者との絆をよりどころとして身近な人に興味をもつ。</p> <p>○愛着関係が深まり人見知りをするようになるが、見守られている安心感の中で、徐々に周囲の人へ働きかけ始める。</p> <p>○保育者と一緒に興味のある玩具で遊んだり、ふれあい遊びを楽しんだりする。</p>	<p>★特定の保育者が、子どもの示す様々な行動や欲求に丁寧に応え、愛着関係を深めようする。</p> <p>★人見知り、甘え、不安などはしっかりと受け止め、周囲の出来事に興味がもてるような語りかけや働きかけをする。</p> <p>★ふれあい遊びなどを繰り返すことで、人と関わる楽しさや、やり取りの心地よさを味わえるようにする。</p>
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感覚を通しての経験の全てが学びの基礎になる。 	



1歳児



様々な感覚を味わう遊びを豊かに経験し、自分の世界を広げていく時期

豊かな心

「ぺたぺた…にゅるにゅる」
「冷たいなあ！」

冷たい・温かい・ドロドロ・さらさら…。様々な感触を楽しむことで、気持ちよさを心と体で感じ、開放的に遊ぶことが、自由に表現する豊かな感性を育む土台となります。

健やかな体

「気持ちいい！
～体で感じて～」

握ったり、ちぎったり、押したり、踏んだり、触ったり、全身を使って遊ぶことで、様々な感覚を味わい、指先や運動の機能が発達していきます。



【感触遊び】



人とかかわる力

「おもしろそうだな」
「触ってみよう」

一緒に遊ぶ保育者の姿を見て興味をもつたり、友達に关心をもち同じことをしようとしたりします。

同じ遊びを共有することで、他者の存在を身近に感じるようになります。



1歳児

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに対する興味をもち、大人と一緒にしようとする。 (排泄時に知らせる、スプーンやフォークを使って一人で食べようとするなど) つかまらずに歩けるようになる。歩行が安定すると手指の機能も発達し、つまむ、めくる、持つ、押すなどの機能が発達する。 「ママ」「パパ」「ワンワン」など、身近な人や物を指す一語文を話し始める。 探索活動が盛んになるにつれて言葉が目覚ましく増え「お外、行く」などの二語文が出てくる。 身近な人やものへの興味が高まり、人の物を欲しがったり取り合ったりするようになる。 絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 	
	<p>♡養護 ◎ねらい ○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育者が仲立ちをすることで、自分の気持ちを思う存分表現できるようにする。 ○保育者との触れ合いやスキンシップを通して、安心して過ごせるようになる。 ○保育者との信頼関係が芽生え、伸び伸びと自分の思いを表せるようになる。 ○自分の欲求や思いなどを、身近な大人を介して伝えようとする。(単語や二語文、指差しなど) ○絵本や身近な玩具、自然物に興味を示し、保育者に見守られながら自ら関わって遊ぶ。 ○保育者や友達と一緒に、歌遊びや踊りを楽しむ。 	<p>★環境構成と援助のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子どもの欲求や甘えを受け止め、信頼できる保育者との触れ合いの中で気持ちの安定を促す。 ★一人ひとりの発達に合った関わりを心がけ、気持ちを理解し優しく受け止めていく。 ★子どもが思いを伝えようとする姿を受け止め理解しながら、自分の気持ちを安心して表すことができるようにしていく。 ★身近な玩具や自然物に触れる機会をもち、好奇心や関心がもてるようにしていく。 ★身近な曲や歌遊びなどに親しみ、保育者や友達と一緒に楽しめるようにする。
豊かな心	<p>♡一人ひとりの生活のリズムで、無理なく過ごせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩行が安定してくるとともに、身の回りのことに対する興味をもち、自分でしようとする気持ちをもつ。 ○食事や排泄、衣服の着脱など簡単な身の回りのことを保育者と一緒にしようとする。 ○つかまらずに歩けるようになり歩行が安定し、活動に動くことを楽しむ。 ○手指の機能が発達し、つまんだり、押したり、めくったりして遊ぶことを楽しむ。 ○一人でスプーンやフォークを持ち、喜んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★自分でしようとする気持ちを大切にしながら、必要な言葉かけや援助を心がける。 ★歩行の確立により、盛んになる探索活動が十分できるように、安全に配慮しながら環境を整える。 ★子どもの『やってみたい』という気持ちの芽生えを大切にしながら、楽しんで遊べるように声をかけたり、見守ったりする。 ★玩具は発達に応じて適切なものを用意し、遊びを通して手指の機能の発達を促す。 ★楽しい雰囲気の中で、自分で食べようとする姿を認め意欲を育てる。
健やかな体	<p>♡甘えや不安などの気持ちを受け止め、安心して過ごせるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達に興味や関心をもち、関わろうとする。 ○友達に興味や関心をもち、同じことをしようとする。 ○身の回りの物を使って、保育者と一緒に遊びながら大人とのやり取りやごっこ遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★保育者と信頼関係を築き、周りの友達への関わりを広げていけるようになる。 ★遊びの状況に応じて仲立ちをしながら、友達と一緒にいる心地よさを感じられるようになる。 ★子どもと一緒に遊ぶ中で、思いに共感しながら受容的・応答的に関わり、簡単な言葉のやり取りを楽しめるようになる。
人とかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感覚を通しての経験の全てが学びの基礎になる。 	
学びの基礎		



2歳児

様々な心情や身体機能が発達していく時期

豊かな心

「やってみたい！」

全身を使い、伸び伸びと体を動かす心地よさを味わいながら、自分でしてみようとする気持ちが強くなり、繰り返し楽しめます。

健やかな体

「よいしょ よいしょ」

基本的な運動機能が伸び、走ったり、押したり、バランスを取ったりしながら体を動かす遊びを繰り返し楽しみ、様々な体の動きを獲得していきます。



「体を動かして」と



人とかかわる力

「いっしょに しよう！」

友達に 관심をもち同じ場所で遊び、楽しさを味わいながら保育者や友達とのやり取りが増えていきます。

学びの基礎

「だんごむし ころころ」

身の回りのものやことへの関心が高まり、見る、聞く、触れるなど様々な感覚を働かせながら関わります。好奇心をもって遊びを楽しみ、さらに興味や関心が広がっていきます。



2歳児

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の助けを得て身の回りのことを自分でしようとする。 ・基礎的な運動機能（走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど）が育つ。 ・自我がはっきりし、自分なりの表現で伝えようとする。 ・好奇心旺盛で何にでも興味をもって試そうとするが、うまくいかずにいらだちを見せることがある。 ・見立て遊び※注1を自分なりに楽しむ。 ・大人から褒められると手伝いなどを喜んでする。 ・歌ったり手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。 ・いろいろなことに関心をもち「なぜ?」「どうして?」と知りたがったり考えたりするようになる。 	
	<p>♡養護 ◎ねらい ○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの子どもが自分の気持ちを安心して表現できるようにする。 ○身近な環境に親しみ、触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 ○身近な自然に触れ、興味や関心をもつ。 ○保育者と一緒に聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの経験をし、感覚を豊かにする。 ○簡単な絵本やお話などの内容が分かり、イメージしながら見たり聞いたりすることを喜ぶ。 ○描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする。 ○保育者と一緒に歌ったり手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	<p>★環境構成と援助のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ★情緒の安定を図りながら、子どもの気持ちや自発的な活動を尊重する。 ★自然と触れ合う中で、子どもの豊かな感性を大切にし、身近な自然との関わりを楽しめるように工夫する。 ★一人ひとりの思いをしっかり受け止め、自分の感じたこと、経験したこと、見たことを伸び伸びと表現できるように共感していく。 ★様々な方法で自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具など、環境を工夫する。
豊かな心	<p>♡保育者との関わりの中で簡単な身の回りのことが少しずつできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康な生活リズムを身につけ、伸び伸びと全身を使って遊ぶ楽しさを味わう。 ○保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを少しずつ自分でしようとする。 ○走る、跳ぶ、登るなどの遊びを通して、全身を使って遊ぶことを楽しむ。 ○いろいろな食材に慣れ、保育者や友達と一緒に楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもが自分でしようとする気持ちを大切にし、一人ひとりに応じて手助けし、自分でできた時に十分ほめ自信をもてるようにする。 ★健康状態、家庭環境、個人差を考慮し、食事や睡眠など無理なく柔軟に対応する。 ★安全面に配慮し、保育者も一緒に遊びながら、全身を使った遊びを楽しめるようにする。 ★保育者や友達と一緒に食べる喜びや楽しさを味わえるよう雰囲気づくりをする。
健やかな体	<p>♡子どもとの信頼関係のもと、一人ひとりの甘えや不安を受け止め安心して過ごせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達に関心をもち、同じ場所で遊んだり自分の思いを言葉で伝えたりするなど、やり取りをする楽しさを知る。 ○保育者や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもの気持ちを尊重し、思い通りにいかない時なども温かく見守り、応答的に関わる。 ★友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるよう保育者も一緒に遊びを楽しむ。 ★自己主張しながら相手の気持ちにも気づくよう保育者が仲立ちをする。 ★いろいろな活動の中で、保育者も子どもと楽しさやイメージが共有できるようにする。
人とかかわる力	<p>○生活や遊びの中でいろいろな事象に興味をもったり、諸感覚を使って環境に関わったりする。</p> <p>○身の回りの様々なことに対して「なぜ?」「どうして?」と不思議に思ったことをたずねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもの知りたい気持ちが満足できるよう、発見や驚き、疑問などに共感していく。 ★身近な自然に対して、保育者も親しみをもち、生活の中に積極的に取り入れていくことで、子どもの関心を高めていく。
学びの基礎		

※注1) 見立て遊び…あるものを別のものに見立てて、想像しながら遊ぶこと



3歳児



自分の好きな遊びを通して、生活を広げていく時期

豊かな心

「あ！コーヒー牛乳みたい！」

砂や泥、草花、空き箱など身近な物に触れて遊ぶ中で、感触や匂いなど様々な感覚を働かせ、自分なりに感じたままに表現したり、イメージしたりする楽しさを味わっています。



「水・砂・泥に触れて」



人とかかわる力

「先生！見て見て！」

発見したり、感じたりしたことを保育者に、言葉やしぐさ、視線で伝えます。そして、その場を共有していくことで、少しずつ友達のしていることに興味をもち、友達への関心も育っていきます。



学びの基礎

「触りたい！使いたい！ もう一回やってみたい！」

身近な環境に関わる中で、興味をもったものを自分から手に取り、繰り返し遊びながら、感じたり、気づいたり、発見したりする経験を重ねていきます。

3歳児

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れが分かるようになり、身の回りのことを自分でしようとする。 いろいろなことに興味や関心をもち、好きな場所や遊びを見つけて楽しもうとする。 基本的な運動能力が伸び、全身を使って思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。 場を共有しながらも一人遊びが多いが、しだいに友達との関わりを求めるようになり、気の合う友達同士で遊びを楽しむようになる。 想像力が豊かになり、保育者や友達と一緒にごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しむようになる。 互いに自己主張が強くなり、自分の思いを言葉で表してはいるが、うまく伝わらずトラブルになることがある。 		
◎ねらい	○内容	★環境構成と援助のポイント	
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や人との触れ合いの中で、自由な発想で、自分なりに思ったことや感じたことを表現する。 ○身近な自然に興味をもち、見たり触れたり遊びに取り入れたりする。 ○自分の思いを保育者や友達に話したり、絵本や物語の世界に触れたりする中で、言葉の楽しさやリズムの面白さに気づく。 ○リズム、絵画、造形遊びなどで、自分がイメージしたことを様々な方法で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★身近な生き物や草花を見たり触れたりして楽しめるよう季節に応じた環境を整え、保育者も一緒に関わっていく。 ★その子なりの表現を丁寧に捉え、受け止めしていくことで、自分の思いを安心して出せるような温かい雰囲気づくりをする。また、相手の気持ちに気づけるよう仲立ちをしていく。 ★イメージを広げたり、膨らませたりできるように発達に応じた絵本や物語などを準備する。 ★自分なりに表現しようとする姿を認めるとともに、様々な直接体験の場を増やし、感動を共有していく。 	
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣を身につけ、伸び伸びと元気に遊ぶ楽しさを味わう。 ○生活の仕方が分かり、食事、排泄、着脱など自分でできることは進んでしまう。 ○健康な生活リズムを身につけ、自分の体に関心をもつ。 ○安全な環境の中で、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○食に興味をもち、友達と一緒に楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★個人差に配慮しながら必要に応じて援助し、自分でしようとする気持ちを認めていく。 ★一人ひとりの発達や安全面を考慮しながら保育者も一緒に遊ぶ中で、体を動かす楽しさを味わえるようにする。 ★楽しく食事ができるような雰囲気づくりを心がける。 	
人とかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達に親しみをもって関わり、安心して過ごす。 ○安心して思ったことや感じたことを表現し、自分の思いを伝えようとする。 ○保育者や気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★一人ひとりの子どもの要求や気持ちを受け止めることで信頼関係を築いていく。 ★スキンシップなど体全体を使ってのコミュニケーションを大切にして保育者や友達とつながる心地よさを味わえるようにする。 ★保育者が仲立ちとなり、自分の思いを伝えようとする姿を支える。 	
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な環境や遊びに興味や関心をもち、積極的に関わる。 ○身の回りのことに興味を示し、自分でしようしたり、遊びや生活にはきまりがあることを知り、守ろうとしたりする。 ○生活や遊びに必要な言葉を知り、使おうとする。 ○自分のしたい遊びを見つけ、じっくり遊ぶ中で様々な素材に触れたり、それを使って遊んだりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもが興味をもって関われるような環境を用意したり、驚きや発見に共感したりしながら興味や関心を膨らませていく。 ★日常の生活や遊びの中で丁寧に関わりながら、生活の仕方や簡単なルールを知り、守ろうとする気持ちを育てる。 ★生活や遊びの中で、必要な言葉に気づいていけるような場をつくっていく。 	



4歳児



様々な感情体験の中で、生活の基盤を培っていく時期

豊かな心

「おいしいジュースはいかがですか」

生活の中で心動かされた体験を友達と一緒に再現して楽しめます。イメージを膨らませ描いたり、作ったり、言葉で表現したりしながら、わくわく感を味わい、またやってみようと思欲をもつようになります。



遊び

健やかな体

「お店の品物を作ろう」

手先の器用さが発達し、はさみをうまく使ったり、テープを切って貼ったりなど巧緻性が増します。また、紙くずをゴミ箱に捨てたり、はさみを使った後には片づけたりなど生活に必要な行動が身につき、自分で生活の場を整えるようになります。



人とかかわる力

「何にしますか?」「これください」

お店屋さんとお客様になって言葉のやり取りを楽しんだり、遊びに必要なものを友達と一緒に作ったりします。時には、互いの思いが伝わらず葛藤やいざこざが生じることもあります。こうした友達との関わりの中で、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを感じたりしながらつながりを深めていきます。

学びの基礎

「もっと面白くしたいな」

「たくさんジュースがいるよ」「お金も作ろう」など、もっと本物らしくしようと、もっと楽しくしたいと、自分の経験したことからイメージし、友達や保育者と一緒に遊びをより面白くしようと考え、工夫します。



4歳児

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れや仕方が分かり、身の回りのことを自分から進んでしようとする。 友達への関心が高まり、身边にいたり同じ遊びをしたりする友達との関わりを喜ぶが、自己主張が強くなり、葛藤やトラブルが多く見られる。 運動遊びやルールのある遊びを好み、友達と一緒に全身を使って遊ぼうとする。 言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しめるようになる。 身近な動植物や自然事象に親しみ、それらに关心や愛情をもって関わろうとする。 もうすぐ年長児になるという期待が高まり、自分たちで遊びを考え進めていく。 		
	◎ねらい	○内容	★環境構成と援助のポイント
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な環境に興味や関心をもち、感じたり考えたりしたことを素直に表現することを楽しむ。 ○身近な自然に触れ、驚いたり、感動したりしながら遊びを楽しむ。 ○絵本や物語に親しみ、自分のイメージを動きや言葉で表現して遊ぶ楽しさを味わう。 ○いろいろな感動体験を通して、イメージを豊かにし、自分の思ったことを描いたり、作ったり、飾ったりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★保育者自身も感性を豊かにし、身近な自然の変化を体で感じ、心ときめく体験を一緒にしていく中で、子どもの発見や驚きに共感したり、生命の大切さを伝えたりしていく。 ★見たことや聞いたこと、感じたことを言葉や動きなどで表現できるよう、時間や場を設ける。 ★一人ひとりの発想や思いを大切に受け止め、自分の思いを伸び伸びと素直に表現できる雰囲気をつくる。 	
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ○健康な生活に必要な習慣を身につけ自分でしようとする。 ○基本的な生活習慣や態度を身につけ、意欲的に生活する。 ○生活のきまりや危険なことが分かり、約束を守つて行動しようとする。 ○戸外で体を十分に動かして、伸び伸びと遊ぶ。 ○身近な食材に興味をもち、苦手なものも進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★遊んだ後の片づけ、衣服の着脱など自分でしようとする気持ちを大切にし、認めたり励ましたりしながら心地よさや満足感が味わえるようにする。 ★好奇心が広がるとともに、危険なことにつながることもあるので、状況に応じて声をかける。 ★自分から進んで体を動かしたくなるような環境づくりを工夫し、保育者も一緒に楽しさを共有する。 ★身近な食べ物への興味や関心が高まるよう栽培活動などを計画的に取り入れていく。 	
人とかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりの思いをもって、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○集団遊びやグループでの活動を通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分の思いを主張しつつかり合う中で友達の思いや考えにも少しずつ気づく。 ○簡単なルールや仲間同士のきまりを守りながら友達と遊ぶ。 ○いろいろな人との関わりの中で愛情や信頼感を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★友達同士で考えようとする姿を見守り、互いの思いが伝わることで遊びが面白くなっていくと感じられるように必要に応じて援助をしていく。 ★意見のぶつかり合う場面などでは、それぞれの思いに寄り添いながら、話し合いの仲立ちをしたり、折り合いをつけられる方法を一緒に考えたりしていく。 ★異年齢の友達と関わったり、地域の人と触れ合ったりする機会を通して、身近な人に親しみがもてるようにする。 	
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な環境に関わり、発見を楽しんだり考えたりし、それを遊びに取り入れようとする。 ○身の回りの事象の変化に気づき、関心をもって関わる。 ○様々な素材に親しみ、自分なりに目的をもったり工夫したりして遊ぶ。 ○自分の思いを言葉で伝えようしたり、友達の話に耳を傾けようしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもの発見や驚きを大切に受け止め共感したり、周りの子どもの意欲にもつながるような働きかけをしたりする。 ★自分なりに試したり、工夫したりできるような素材や環境を準備し、じっくりと遊び込む時間を十分に確保する。 ★子どもの言葉を温かく受け止め、心を通わせながら言葉を交わす喜びを味わえるようにする。 	

5歳児

(4月～12月)



人として、社会の中で生きていく素地となる力を身につけていく時期

豊かな心

「いろいろな色になるよ」

「すごい！紫になったよ」「もっといろいろな色水を作ってみたい」「これとこれを混ぜたら何色になるかな？」など様々な発見に驚き、わくわくした気持ちを友達と共有、共感しながら、自分らしく表現する楽しさを味わっています。



「色水遊び」



人とかかわる力

「もっと混ぜるといいんじゃない？」

友達と互いの思いや考えを出し合い、共通の目的やイメージの実現に向かって取り組んでいます。自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら楽しさや面白さ、時には伝わらないもどかしさなどを味わい、共有し、仲間としての気持ちが育っています。

学びの基礎

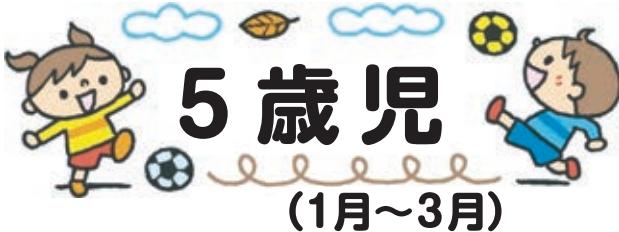
「赤と青を混ぜたら紫になったよ」「薄い色にしたいから水を入れよう」

自分の考えを実現したいという思いから試行錯誤を繰り返します。うまくいく喜びや失敗した時の悔しさを味わいながら、さらに探究したり新しい発見をしたりし、遊びが広がっていきます。遊びを通して、予想したり比較したり、性質に気づいたり、身近な廃材や用具の特性を知り工夫しながら使ったりする経験を重ね、思考力や想像力が培われます。



5歳児（4月～12月）

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児になったことを喜び、世話や当番活動などいろいろなことに取り組もうとする。 ・基本的な生活習慣が身につき、進んで戸外に出て運動遊びをしたり、友達と教え合ったり競い合ったりしながら、好きな遊びを思う存分楽しむようになる。 ・友達との関係が深まり、共通のイメージをもって遊んだり目的に向かって集団で行動したりするようになる。 ・気持ちのくい違いや自己主張のぶつかり合いなどからトラブルになることがあるが、考えを出し合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら、自分たちで解決しようとする力が身についてくる。 ・様々な活動への興味が高まり、いろいろなことに積極的に挑戦しようしたり、友達と協力してやり遂げようとしたりする。 	<p>★環境構成と援助のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ★安心して自分の思いや考えを表現できる環境をつくっていくとともに、子どものイメージの豊かさに関心をもち、共感していく。 ★様々な体験を通しての気づきや発見を友達と共有する場を大切にしていく。 ★動植物や自然などいろいろな環境と出会い、触れ合う直接体験ができる場を意図的に計画したり、環境をつくったりしていく。 ★動植物と触れ合う中で、生命がもつ不思議さや尊さを感じられるような援助を心がける。
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な感動体験や直接体験を通して、感じたり考えたりしたことを、自分なりに表現する楽しさを味わう。 ○安心できる関係の中で、感じたことを自分らしく表現することを楽しむ。 ○感動したことを保育者や友達と共有する。 ○生活の中で身近な環境に十分に触れ、様々な感覚を通してイメージを豊かにする。 ○動植物に親しみをもって世話をしたり育てたりして、命の大切さに気づく。 	
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ○健康な生活をするために必要な習慣を身につけ、様々な遊びを通して、思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○進んで戸外遊びを楽しみ、伸び伸びと体を動かす心地よさを味わう。 ○保育者や友達と触れ合いながら、いろいろな運動遊びに意欲的に取り組み、あきらめずに挑戦する。 ○食材に興味をもったり働きを知ったりして、進んで様々な食材を食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★十分に体を動かし、意欲的に取り組めるような援助を心がける。 ★健康で安全に過ごすための習慣やきまりの大切さが分かり身につくよう関わっていく。 ★友達と一緒にいろいろな遊びに挑戦できるよう、用具などを準備したり環境を整えたりする。 ★あきらめずに挑戦しようとする姿を認めたり、励ましたりして少しずつできるようになることを一緒に喜び、意欲につなげていく。 ★食事や栽培活動を通して、体と食の関係や大切さを知らせていく。
人とかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いを友達に分かるように伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、思いを通り合わせて遊ぶことを楽しむ。 ○友達や身近な人と親しみをもって関わったり、コミュニケーションを楽しんだりする。 ○自分の思いが相手に伝わる喜びを味わったり、友達の考えを認めたり受け入れたりする。 ○友達とイメージや目的を共有し、工夫したり協力したりする楽しさを味わう。 ○異年齢の友達を思いやり、優しい気持ちで関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★一人ひとりが自己発揮しながら存分に遊ぶ中で、その楽しさを共有する仲間の存在に気づき、友達関係が広がっていくよう関わる。 ★互いに気持ちを伝え合う中で、葛藤やつまずきを通して、相手の思いに気づいたり自分の思いを振り返ったりできるよう援助する。 ★友達と思いを伝え合ったり、一緒に力を合わせたりする心地よさを味わえるような環境づくりを工夫する。 ★友達と一緒にイメージしたもののが実現できるよう必要に応じて支援していく。 ★年長児としての自覚をもち、異年齢児に関わる姿を見守ったり、仲立ちとなったりする。
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に身近な環境に関わり、興味や関心を広げたり、発見する喜びを味わったりする。 ○身の回りのものや出来事に関心をもち、積極的に関わろうとする。 ○自然事象や植物や生き物などの不思議さを感じたり、疑問をもったりし調べてみようとする。 ○相手に伝わるように話したり、相手の話を聞く大切さや楽しさを感じたりする。 ○自分なりの目的をもって、考えたり試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ★興味をもって自ら関わりながらイメージを広げ、工夫したり調べたりできる環境づくりに努める。 ★子どもの発見や驚きに共感したり、疑問や不思議に思ったことを一緒に調べたりしながら、探求心や好奇心を支えていく。 ★一人ひとりの表現を認めていきながら、経験したことや考えを伝え合ったり、子ども同士で考えたりする場を十分にもつようにする。 ★目標をもって取り組む姿を認めたり励ましたりする。



5歳児

(1月～3月)



いろいろな人と関わる中で、幅広い社会性や豊かな感性が育まれていく時期

豊かな心

「コートを作ろう!」「チーム分けしよう!」

どんな形のコートにするか、どうやってチームを分けるなど自分の考えを言葉や行動で表現しています。友達と考えを伝え合う中で、共感したり違いを受け止め合ったりしながら表現する喜びを味わうことで、表現力や創造力が育まれます。

健やかな体

「ボールとりたい!」「やったあ!当たったよ!」

ボールを思いきり投げたり、捕ったり、素早く避けたりなどスリル感や全身を動かす充実感を味わっています。ルールを理解しながらボールの動きを見て、体を動かすことで、周りの状況を見て自分の体を調整する力が育まれています。



「ボール遊び」



人とかかわる力

「もっと話してみようよ」「じゃあ、こうしてみる?」

仲間関係が深まっているこの時期は、遊びをより面白くしようと進んで友達と話をするようになります。相手の気持ちになって考え、分かるように話したり、優しく教えたりする姿が自然に見られて協調性や社会性が育っていきます。

学びの基礎

「もっとやりたい!」「明日もしよう!」

ドッジボールがしたいという共通の目的に向かって必要なことは何か、どんなルールにするか、人数の調整などを考えています。友達の動きをヒントに自分の動きを工夫したり、困ったことがあった時は、解決するための方法を考えたりしながら遊びを進め、満足感を味わうことで、意欲や自信が育まれていきます。



5歳児（1月～3月）

発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> これまでの体験から見通しを立てる力が育ち、心身ともに充実し好奇心が旺盛になる。 仲間意識が高まり、互いに考えを出し合い認め合いながら、友達と一緒に目的をもって取り組み、やり遂げた充実感や満足感を味わうようになる。 友達と相談したり工夫したりしながら、力を合わせて物事に取り組もうとする。 様々な知識や経験を遊びに生かしながら、満足するまでじっくり取り組む。 友達が違う考えをもっていることに気づき、少しずつ我慢したり譲り合ったりして、折り合いをつけようとする。 思考力や認識力が高まり、自然事象や社会事象、文字や数などに興味をもち、生活や遊びに取り入れようとする。 就学への期待が膨らみ、生活や遊びに意欲的に自信をもって取り組めるようになる。 	
	◎ねらい ○内容	★環境構成と援助のポイント
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中で感じたことを友達と伝え合う中で、共感したり、違いを受け止め合ったりしながら、表現する楽しさを十分に味わう。 ○保育者との信頼関係が深まり、安心して自分の気持ちや感じたことを伸び伸びと表現する。 ○様々な環境やものへの興味や関心を深め、面白さや不思議さなどを感じ、保育者や友達に伝えたり、一緒に探求したりして楽しむ。 ○感じたことやイメージしたことを伝え合う中で、共感したり違いを受け止め合ったりしながら、表現する楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ★感じたことやイメージしたことを伸び伸びと表現できるよう、一人ひとりの考え方や思いを受容していく。 ★友達と共に感し合い、遊びを展開していく中で、互いの思いを受け入れようとする姿を温かく見守る。 ★子どもの好奇心や探究心を満たせるような場をつくり、感じたことを自分らしく表現する心地よさを感じられるようにする。 ★様々な方法で、表現することの楽しさや感動したこと 등을伝え合う喜びが味わえるようにする。
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ○健康で安全な生活に必要な習慣の大切さが分かるとともに、見通しをもって、自分たちで生活を進めていくこうとする中で、充実感を味わう。 ○自分の体に关心をもち、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ○友達と一緒に十分体を動かし、集団遊びや運動遊びを楽しむ。 ○目標や課題に向かって挑戦する楽しさを味わう。 ○食材に关心をもったり役割を知ったりしながら、楽しく進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★見通しをもち、自分たちで生活を進めていくこうとする姿を十分に認め、状況に応じた働きかけや言葉かけをしていく。 ★子どもたちが意欲的に楽しみながら取り組めるような運動遊びを取り入れたり、用具など環境を整えたりしていく。 ★友達と一緒にやり遂げようとする姿を大切にしながら、達成感や意欲、自信につなげていく。 ★友達と一緒に食べることを楽しみ、食への関心を高めていくけるような環境を工夫する。
人とかかわる力	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよさを知り、互いの存在を認めながらつながりを深めていく。 ○友達と関わりながらつながりを深め、共通の目的に向かって自己発揮し、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた達成感や満足感を味わう。 ○友達の考えを聞いて自分との違いに気づき、互いによさを感じ合ったり、折り合いをつけたりなど気持ちを調整しながら、遊びや生活を進める。 ○自分の思いを安心して伝える中で、自信をもつとともに仲間の一人としての自覚をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★一人ひとりの思いを受け止め、個々のよさを認めながら、自己肯定感を育んでいくようにする。 ★じっくり取り組む時間や場の確保、互いに協力したり刺激し合ったりする場の設定など、環境を工夫する。 ★共通の目的に向かって協力していく過程を大切にし、一緒にやり遂げたいという気持ちを支えることで、達成感や満足感が味わえるようにする。 ★自分の考え方や思いを出し合う機会を捉え、互いの違いを認めたり、相手のよさに気づいたりしながら、自分の気持ちに折り合いをつける経験を重ねていけるようにする。
学びの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな遊びを楽しみながら、自分なりの満足感や達成感を味わい、小学校への期待をもって主体的に生活する。 ○自分の気づきや発見を友達と共有し、取り入れて遊ぶことを喜ぶ。 ○友達の考え方や意見に刺激を受け、考えを広げたり深めたりする。 ○文字や数などに关心をもち、生活や遊びに取り入れたり生かしたりしながら楽しむ。 ○小学校への期待をもち、生活や活動に見通しをもって意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ★身近な環境に進んで関わり、発見したことを友達と教え合ったり考えたりして、遊びに取り入れていけるよう援助する。 ★生活や遊びの中で文字や数に触れる環境をつくり、楽しみながら文字や数への関心を深めていくようにする。 ★就学への期待を膨らませ見通しがもてるよう、一人ひとりの成長や発達を踏まえ丁寧に支援していく。

丸亀市就学前教育施設 アプローチカリキュラム

月	10	11	12	10	11	12
発達の姿	○基本的な生活習慣が身につき、一日の見通しをもち、生活の流れを意識して行動するようになる。 ○思いの違いからトラブルになることもあるが、考えを出し合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら、自分たちで解決しようとする。 ○友達との関係が深まり、共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって力を合わせたりするようになる。					
ねらい	○自分なりの目的をもって繰り返し取り組み、満足感や達成感を味わう。 ○自分の考えを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら、協力して活動する楽しさを味わう。					
内容（育みたい資質・能力）	<p>知識及び技能の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の見通しをもち、主体的に進めようとする。 ・生活に必要な挨拶や習慣を身につけ、身近な人や地域社会に親しみをもって関わり、楽しさや喜びを味わう。 ・自分の力を發揮し、友達と共に目的に向かって意欲的に取り組む。 ・自分の思いや考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら一緒に遊びを進めていこうとする。 ・少し難しいことにも自分なりの目的をもって、繰り返し挑戦する面白さを味わう。 ・興味をもったことにじっくりと取り組み、自分なりに試したり工夫したりする。 ・物の性質などに興味や関心をもち、気づきや発見を遊びに取り入れる。 ・共通の目的に向かって、自分たちで考えを出し合い、思いを伝え合いながら遊びを進めていく。 ・友達と遊びや生活の中で、イメージを膨らませながら、一緒に表現する楽しさを味わう。 <p>思考力、判断力、表現力等の基礎</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p>					
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに主体的に取り組み、楽しさや面白さを十分に味わえるように保育者も仲間となり、子どもの気づきや発見を認めていく。 ・子どもたちが自分たちで考えを出し合う姿を見守りながら必要に応じて関わる。 ・取組の過程を大切にする中で、自分と向き合いながら諦めずにやってみようとする気持ちに共感し、励ますなど頑張りを認める関わりをする。 ・クラス全体の話し合いの場を大切にしながら、認められる嬉しさや一緒に考え合う仲間がいる安心感を味わえるよう援助する。 ・子どもの発見や驚きに共感したり、疑問や不思議に思ったことを一緒に調べたりしながら、遊びや生活に取り入れていけるよう関わる。 					
生活や遊び						
交流活動						
家庭との連携						

各 領 域 の

各領域に示す「ねらい及び内容」に基づき、幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的な指導を行う

1 2 3

- 仲間意識が高まり、互いに考えを出し合い、認め合いながら、友達と一緒に目的をもって取り組み、やり遂げた充実感や満足感を味わうようになる。
- 友達が違う考えをもっている事に気づき、少しずつ我慢したり譲り合ったりして、折り合いをつけようとする。
- 就学への期待が膨らみ、生活や遊びに意欲的に自信をもって取り組めるようになる。

- 活動に見通しをもち、いろいろな方法を試しながら、最後までやり遂げようとする。
- 友達と互いに認め合い、協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう。

- ・生活の流れに見通しをもち、自分たちで進めていきながら、充実感を味わう。
- ・生活や遊びの中で、自分で判断して行動しようとする。
- ・就学することに期待をもち、自信をもって行動する。
- ・友達と関わる中で、互いのよさを認めたり、自分の気持ちに折り合いをつけたりしながら、共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた達成感を味わう。
- ・遊びやクラスでの活動をさらに深めるために、友達と思いを通り合わせながら、考えを出し合う。
- ・友達と一緒に目的をもって取り組む中で、互いの思いを知ったり、伝えたりしながらつながりを深めていく。
- ・友達と思いを伝え合い、いろいろな見方、考え方につれてることで一緒に考えていく面白さを味わう。
- ・友達と共にイメージをもち、様々な方法でともに表現する中で、友達と一緒に達成できた喜びを感じる。
- ・大きくなる喜びを感じ、自信をもって生活を進めていこうとする姿を十分に認め、就学への様々な気持ちを受け止めていく。
- ・子どもたち一人ひとりが自分の力を發揮しながら、十分に遊び込めるような時間と場を確保し、充実感や達成感を味わえるように関わる。
- ・互いの思いや考えの違いに気づき、相手のよさを感じたり、自分たちで解決していくこうとしたりする姿を見守り、大切にする。

幼児期の終わりまでに育つてほしい姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

小学校

スタートカリキュラム

取組

言葉の獲得に関する領域

言葉

感性と表現に関する領域

表現



2 日々の振り返りや保育カンファレンスの工夫～各園・所の取組から～

【保育記録の工夫】

●保育記録について

保育記録は、

幼児を理解する

幼児理解のもとに次の保育を構想する

保育者在り方を省察する

保育者同士が情報を共有する

保護者との連携に生かす



ことが目的です。



目指す保育に向けて自園・所にあった記録様式を選びましょう。

《主な保育記録の様式と特徴（長所：+ 短所：-）》

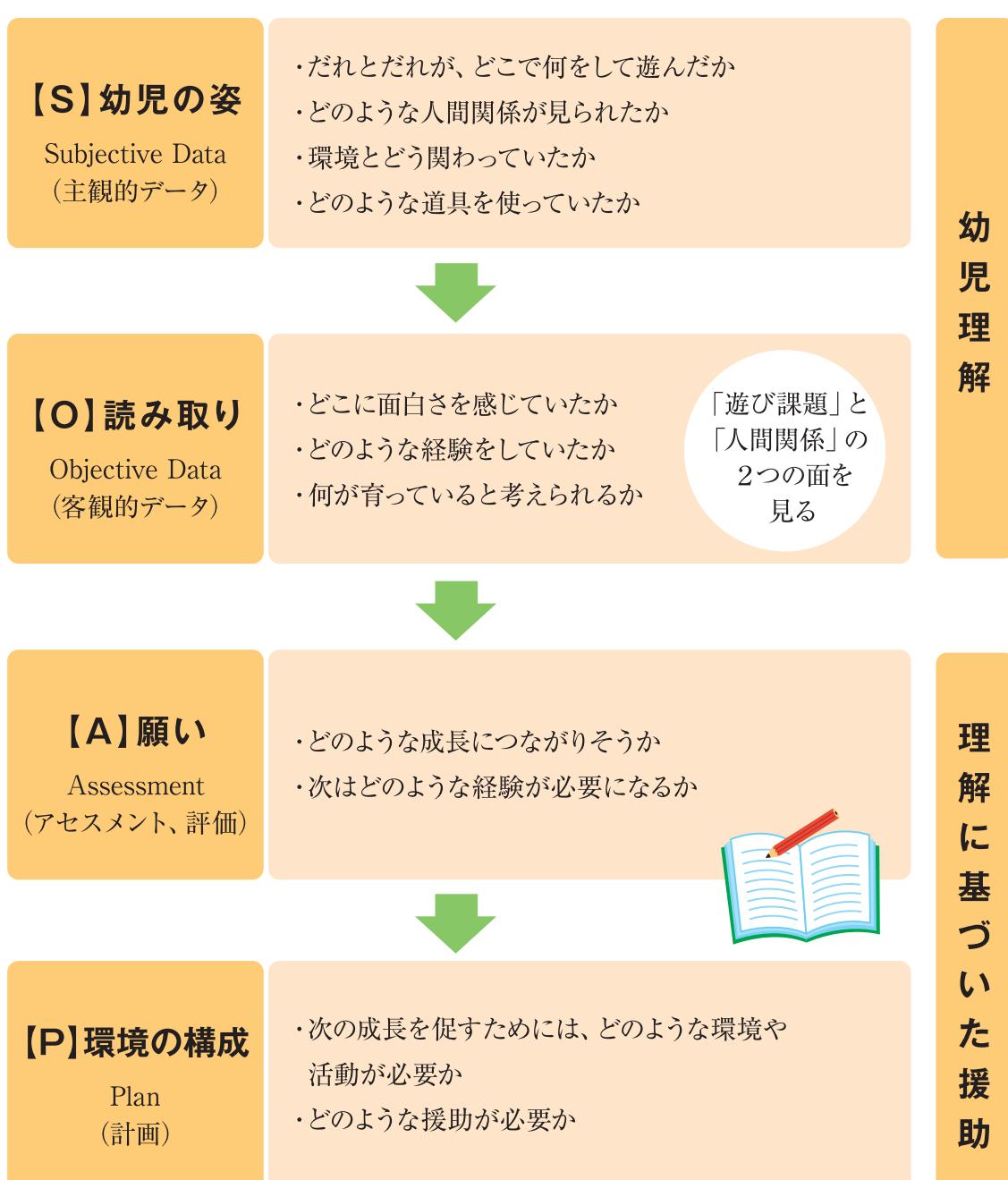
保育マップ型記録	(+) 保育環境に位置づけて、遊びや人間関係を記述する。空間を俯瞰的に捉え、同時多発的に起こる遊びを記録できる。 (-) 時間経過に伴う遊びの変化や人間関係の変化などは記録しづらい。
週日案型記録	(+) その日の計画と対応させて保育を振り返るため、1週間の流れの中で子どもの姿を捉えやすい。 (-) 記述スペースが限られるため活動の記録中心になりやすい。エピソード記入欄を別に設けて補う方法もある。
個人名簿型記録	(+) 個々の姿を記録するため、遊びを通して経験や育ちを捉えやすく、保育者と子ども一人ひとりとの関わりも見えやすい。 (-) 年齢を経て友達関係が深まると記述が難しくなる。
日誌型記録	(+) 一日の保育の流れに沿って記録するため、その日の活動を振り返りやすい。 (-) 事実の羅列になりやすいため、子どもの経験の読み取りを意識して記述する必要がある。

《PDCAサイクルで見直しながら》

計画 (Plan)→実施 (Do)→評価 (Check)→改善 (Action)。保育では、保育案=P、実際にを行う=D、振り返り=C、改善点を生かして次へ生かす=A というサイクルで、保育を見直していきましょう。PDCAの循環の継続が重要でこれらの運動の中で保育の質と職員の協働性が高められていきます。

《保育記録に取り入れたい視点SOAP》

「SOAP」は医療現場における看護記録の手法で、患者のもつ問題を多面的かつ正確に捉えて有効な治療方法を見いだすためのものです。その考え方を保育記録に応用します。あらゆる様式の記録で使え、その視点を取り入れることで記述内容が深まる点が「SOAP」の優れているところです。



【聖心女子大学 河邊貴子教授 提案より】

【保育カンファレンスの工夫】

●保育カンファレンスについて

保育カンファレンスはそれぞれが把握している状況・判断を言語化し、考えを交流することを通して自分の教育観を自覚し教育実践を改善・充実させます。保育の悩みを提示して、保育者みんなで幼児の遊びの姿や保育者の関わりと環境の構成などについて意見を出し合い、幼児理解を深め保育力を高めるなど、保育の質の向上につながり大変効果があります。様々な方法があるので、その時に合った工夫をしながら取り組んでみましょう。

写真・動画を使って

子どもの姿を言葉だけで伝えることには限界があります。写真是言葉を補ったり客観的に見たりできることから、様々な気づきがあります。他の保育者と共有しながら内面理解に努めることもできます。

※写真・動画を撮ることばかりに気持ちを向けず、保育者としての役割や心もちを忘れずに！



園内環境図を使って

子ども全体の動きを俯瞰して、子どもの遊びや経験の意味を読み取り、次の援助を検討します。



ボードフォリオ・ドキュメンテーションを活用して

保護者へ発信するボードフォリオを活用し、各保育者がボードフォリオから気づいたことや感想等の付箋にコメントを書いて貼ります。集合研修が難しい時や子どもの姿を多面的に見る時に活用できます。

ドキュメンテーションは、遊びの中で、子どもたちは何を学び、何を感じているのか、客観的に活動内容を振り返り、そこでの学びを記録し、次回の保育へのヒントを得ることにつながるエピソード記録の一つです。保育のプロセスや評価が当事者のみならず見えやすいため、共有しやすいメリットがあります。



ホワイトボードを使って

日々の保育の流れを可視化し、それをもとに話し合うことで、園・所全体での振り返りや、見通しがもちやすくなります。



Web図を活用して

子どもの興味の広がりを“くもの巣状”に表す「Web」。中心に今、子どもが興味をもっている内容（トピック）を記入し、そこからつながりある線を結んでいきます。今後、興味がどう広がるかを予測しながら環境構成や言葉かけなどの検討ができます。そして、実際の生活や遊びを通して子どもの興味が広がったり変化したりするたびに記入していくと、子どもの発想の面白さが読み取れます。また、Web図を活用して、その遊びでの学びや個々の子どもの動きを書き込んでいくなど、様々な工夫ができます。



実際の環境をともに見ながら

園内の環境を実際に見ながら、子どもの興味や関心とのようにつながっているか、よさはどこにあるのか、安心・安全な環境になっているか、保育者の思い込みになってはいないかなど、いろいろな視点から話し合うことで、園内全体の環境構成や充実につながっていきます。



エピソード記録・実践事例から

保育のエピソードとして文章化したエピソード記録や実際に取り組んだ具体的な実践事例を用いて話し合います。

記録を書いただけで終わらせないので、次の保育に生かされます。また、事例集を活用すると、子どもの心の動きや保育者の関わり、環境構成など、客観的に捉えられたり、自身の保育を重ね合わせたりしながら、幼児理解や保育について考えることができます。

付箋を使って

同じ場面を共有した保育者各自が、子どもの姿や心の動き等の読み取りを付箋に書き、共通することをグループ化していくながら、子どもの育ちを考えていきます。



ロールプレイング

現実に起こる場面を想定して、保育者と子ども等の役割を演じてみることで、それぞれの立場や気持ちを理解することができます。どんな気持ちだったのか、どのような関わりが必要なのかなど具体的な話ができます。

- 子どもへの関わり
- 保護者対応
- 地域との関わり
- 職員同士 など



3 関係機関との連携

子育てに対する不安や負担の増大などを背景に、児童虐待が大きな社会問題となっています。子どもにとっても、保護者にとっても、心身ともに大きな傷を残すものだけに、発生の予防や早期発見・早期対応ができるよう、子どもや家庭の変化をきめ細やかに見守る姿勢が求められています。また、ひとり親家庭、貧困、心身の病気などの理由から育児に困難さを抱えている家庭も少なくありません。いずれの場合も、様々な支援や配慮が必要です。就学前教育施設では、その役割や専門性を活かしながら、一人ひとりの人権や生命を大切にする保育に努めています。しかし、それには限界があり、専門の関係機関との協働が不可欠です。

丸亀市では、様々なケースに応じて、下記のような関係機関・専門職者との連携をもとにネットワークを構築し、きめの細かい相談や見守りなどの支援の強化に努めています。





身近な相談場所一覧 (令和4年3月現在)

妊娠・出産



- ・子どもがほしいのにできない⑰
- ・産後の生活が不安①⑨②㉑
- ・出産に向けての不安が強い①⑨
- ・イラライラする、気持ちが落ち込む、涙がでる、眠れない①⑨⑩
- ・母乳で育てたい㉑



- ・子どもとの関わり方がわからない①②③⑨⑪⑫
- ・子育てを一生懸命やっているのにうまくいかない①②③⑨⑪⑫
- ・叱ってしまうことが多いよう…①②③⑨⑪⑫
- ・発育・発達が心配①②③④⑨⑪
- ・子どもを一時的に預けたい②⑥㉐
- ・パートナーとの関係・トラブル③⑯⑯㉓



- ・卒乳したい㉑
- ・子どもを保育所に預けたい⑥
- ・子どもを幼稚園・こども園に入園させたい⑥
- ・そろそろ仕事を始めたい⑯
- ・送迎を頼みたい㉐
- ・子どもが病気…仕事が休めない㉑



- ・発達が心配①④⑨⑪
- ・仕事、育児のストレスがたまる①③⑨
- ・経済面が不安②（母子寡婦）
- ・職場でのトラブルに困っている⑯
- ・休暇が取りにくい⑯



- ・どんな準備がいるの?⑦
- ・通常学級でいいの?⑦⑯⑫
- ・放課後、子どもを預けたい⑤
- ・子どもの成長⑦⑯⑫
- ・勉強についていけない⑦⑯
- ・発達が気になる④⑦⑯
- ・イラライラする、夜眠れない①⑨⑩



- ・子どもとの関わり方がわからない⑦⑧⑨⑯⑫
- ・親同士のもめごと⑦
- ・いじめられている⑦⑧⑨⑯⑯
- ・先生との関係⑦⑧⑯⑫
- ・不登校になつた⑦⑧⑨⑯⑫
- ・ひきこもり⑦⑧⑨⑯⑫
- ・非行⑦⑧⑯⑫



機関番号	相談機関名	電話番号	受付時間
①	丸亀市健康課	24-8806	平日8時30分～17時15分
②	丸亀市子育て支援課	24-8808	
③	丸亀市家庭児童相談室	23-2201	平日8時30分～17時
④	丸亀市子育て総合相談窓口 まる育サポート「あだあじょ」	85-8810	平日9時～12時 13時～16時
⑤	丸亀市教育部総務課	24-8820	
⑥	丸亀市幼保運営課	35-8892	平日8時30分～17時15分
⑦	丸亀市学校教育課	24-8821	
⑧	丸亀市少年育成センター	0120-734970	平日8時30分～17時

機関番号	相談機関名	電話番号	受付時間
⑨	香川県中讃保健福祉事務所	24-9963	平日8時30分～17時15分
⑩	香川県精神保健福祉センター (こころの電話相談)	087-804-5566 (087-833-5560)	平日8時30分～17時15分 (平日9時～16時30分)
⑪	香川県西部子ども相談センター	24-3173	平日8時30分～17時15分
⑫	香川県子ども女性相談センター 子どもと家庭の電話相談	087-862-4152	
⑬	香川県子ども女性相談センター 女性相談	087-835-3211	平日・土曜日 9時～21時
⑭	香川県ひきこもり 地域支援センター	087-804-5115	平日8時30分～17時15分
⑮	香川県教育センター (全国統一ダイヤル)	087-833-4227 (0570-0-78310)	24時間
⑯	丸亀警察署	22-0110	平日8時30分～17時
⑰	不妊相談センター	087-835-5800	月・水・金曜日 13時30分～16時20分
⑱	丸亀労働基準監督署	22-6244	
⑲	ハローワーク丸亀	21-8609	平日8時30分～17時15分

機関番号	相談機関名	電話番号	受付時間
⑳	丸亀市社会福祉協議会 (ファミリー・サポート・センター)	22-6974	平日8時30分～17時15分
㉑	おかだ小児クリニック おひさま（病児・病後児保育）	58-0707	平日8時30分～17時30分
㉒	すこやか助産師センター	087-844-4131	平日10時～16時
㉓	法テラス香川 (利用条件あり)	0503383-5570	平日9時～17時

*平日:月～金曜日(年末年始・土・日・祝を除く)
主に丸亀市の公共機関を掲載しています。



こんなことで
相談していいのかな…
と一人で悩まず、
まずはご相談を!



子育て世代のあなたへ



一時預かり事業（一般型）

実施施設	住 所	電話番号
城北こども園	丸亀市北平山町二丁目12番20号	22-3449
城南保育所	丸亀市山北町261番地	58-0551
富熊保育所	丸亀市綾歌町富熊1226番地	86-2209
恵城保育園	丸亀市中府町二丁目9番21号	22-6530
虎岳保育園	丸亀市田村町1676番地1	58-4401
ひつじヶ丘保育園	丸亀市垂水町川原16番地52	28-1310
丸亀城南虎岳幼稚園	丸亀市田村町1678番地	23-7528
しおや保育所（休止中）	丸亀市前塩屋町二丁目1番17号	22-4848

一時預かり事業（幼稚園型）

実施施設	住 所	電話番号
丸亀聖母幼稚園	丸亀市幸町二丁目7番地7	22-4529
丸亀城南虎岳幼稚園	丸亀市田村町1678番地	23-7528
西幼稚園	丸亀市南条町34番地2 <small>(R4.4～R6.3(仮移転) 土居町三丁目9番27号)</small>	22-4330
城坤幼稚園	丸亀市今津町278番地	22-3901
城東幼稚園	丸亀市土器町西四丁目668番地	22-3582
城辰幼稚園	丸亀市川西町南161番地	28-7302
あやうたこども園	丸亀市綾歌町岡田東1150番地	86-3011
飯山こども園	丸亀市飯山町真時71番地1	98-4023
郡家こども園	丸亀市郡家町787番地	28-7116
彩芽こども園	丸亀市三条町781番1	28-2783

子育て短期支援

実施施設	事業内容	お問合わせ先
ショートステイ	保護者が病気や仕事等で子どもの養育が一時的に	24-8808
トワイライトステイ	困難になった場合、一時的に養育保護する	子育て支援課（丸亀市役所内）

子育て支援活動団体

実施施設	事業内容	お問合わせ先
ファミリー・サポート・センター	子育ての援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、子育てについて助け合う会員組織	22-6974

病児・病後児保育（病院等）

実施施設	事業内容	お問合わせ先
おかだ小児クリニック —おひさま—	当日診察の結果、利用可能となった乳幼児及び児童（生後6か月から小学6年生）の病児保育を行う ※定員 5人以内	58-0707

子育て相談事業

実施事業	事業内容	お問合わせ先
丸亀市子育て支援総合相談窓口 まる育サポート 「あだあじょ」	妊娠期から18歳までの子育てに関する相談に、専門相談員が幅広く対応し、必要に応じて保健・医療・教育・福祉などの各機関と協力をしながら、継続的な支援を行う	85-8810 (NPO法人 グランマール)



丸亀市発達障がい児支援協働事業

※詳細は、丸亀市発達障がい児支援相談窓口「ほっぺ」(0877-85-6613)までお問合せください。

実施事業	事業内容
すきっぷ	発達障がいのある子どもの保護者の相談会 (コーディネーターがグループカウンセリング的に進めていく)
ぴあ・ほっぺ	発達障がいや発達障がいではないかと思われる子どもの保護者が、話したり情報交換したりするなど、出会いの場として開設
はぐみくらぶ	子どもの人との関わりに不安を感じている1~3歳児と保護者のための触れ合いの場 (子ども1名につき、スタッフ1名が自由遊びに沿いながら関わる)
個別相談《ま～る》	支援が必要な子どもについて、保護者が専門家と個別に相談できる機会を設けている
セミナーなど	子育て、発達障がいをテーマに、保護者や保育士、教諭などを対象に実施している
巡回カウンセリング	医師・大学教授・臨床心理士等の相談員が各保育施設や学校に巡回し子どもたちへの関わり方を保育士・教員にアドバイスしている 相談員による保護者との個別相談も随時実施している



地域子育て支援拠点施設

実施施設	住 所	電話番号
城辰保育所地域子育てセンター	丸亀市川西町南746番地1	28-0100
綾歌地域子育て支援センター	丸亀市綾歌町富熊1226番地(富熊保育所内)	86-2209
飯山地域子育て支援センター	丸亀市飯山町東坂元1614番地2(飯山北第二保育所)	98-2095
恵城保育園子育て支援センター	丸亀市中府町二丁目9番21号(さくらんぼサークル)	22-6530
誠心こども園子育て支援センター	丸亀市郡家町3241番地5(ポッポのひろば)	43-5860
ひつじヶ丘保育園子育て支援センター	丸亀市垂水町川原16番地52	28-1310
コムコムひろば・どき	丸亀市土器町東二丁目248番地	25-0691
コムコムひろば・あやうた	丸亀市綾歌町栗熊東2253番地3 あやうたふれあいプラザ内	35-7114
出張ひろば・コムコム城坤	丸亀市今津町283番地 城坤コミュニティセンター内	080-1995-5656
子育てひろば たんぽぽ	丸亀市飯山町東小川1260番地 東小川児童センター内	98-1238
子育て支援ひろばあやめちゃん(彩芽こども園)	丸亀市三条町781番地1	28-2783
子育て支援とらっこ(虎岳幼稚園)	丸亀市田村町1678番地	23-7528



ウエルカム広場

実施施設	事業内容	電話番号
各コミュニティセンター 綾歌・飯山総合保健福祉センター	(対象者) 妊婦さん、0歳児からの子どもたち、お父さん、 お母さん、地域の人たちおじいちゃん、おばあちゃん、 (内 容) 身体測定、保健師・栄養士などによる育児相談、 保育士による遊びの紹介	24-8806 (担当) 健康課



フリースペースの開放(自由に利用できます)

	実施施設	住 所	電話番号
プレイルーム	綾歌保健福祉センター内	丸亀市綾歌町栗熊西782番地	86-6600
	飯山総合保健福祉センター内	丸亀市飯山町下法軍寺581番地1	98-1571
キッズスペース	マルタス(市民交流活動センター内)	丸亀市大手町二丁目4番11号	24-8877

丸亀げんきつ子夢プラン

発行日/ 令和4年3月

発行/ 丸亀市教育委員会 幼保運営課

〒763-8501 丸亀市大手町二丁目4番21号

電話 0877-35-8892 (幼保運営課)



**MARUGAME
CITY**